

音律の再生能力による再生装置の評価実験 (9)

—再生ソフトの再評価—

1. 目的

株式会社インフラノイズは、「純正律で演奏された録音を用いて聞き比べた時に演奏の内容や音質の好みの違いなどの違いで判断が左右されることなくケーブルの再生能力の優秀性が確認できる」と主張しています。

この記述の検証を行ってきた結果、同社のケーブルの再生能力の優秀性を確認できました。この時点で、ケーブルを替えたことにより再生ソフトの印象が変わるかどうか、補足実験として再生ソフトの再評価を行いました。

2. 実験方法

2-1) 使用ケーブル

下記のようなケーブルで再生ソフトを替えて下記音源を比較します。ケーブルの組み合わせの詳細は別添の実験計画を参照してください。

① □ルート A インフラノイズ社のケーブル使用

2-1) 使用音源と再生ソフト

楽器の聴き分けとホールトーンの識別用音源を用いて再生ソフトを比較します。以下の CD を Windows Media Player でリッピングして WMA ファイルとし、Lilith で 44.1KHz,16bit の WAV ファイルに変換したのち、r8brain で 96KHz,24bit および 192KHz,24bit の WAV ファイルに変換し、東芝の SSD ネットブック PC の SSD から再生しました。Windows Media Player により 44.1KHz,16bit の WAV ファイルを、また VUPlayer により 44.1KHz,16bit, 96KHz,24bit および 192KHz,24bit の WAV ファイルを再生しました。

① 田中千香士編著「ヴァイオリンの名器と名曲」(ナツメ社) 付録 CD

ヴィットリオ 1992 年、およびストラディバリウス 1667 年によるタイスの瞑想曲

② CD マリス・ヤンソンス指揮バイエルン放送交響楽団ワーグナー歌劇・楽劇序曲集

歌劇「タンホイザー」序曲、および楽劇「ワルキューレ」のワルキューレ騎行

③ アンネ・ゾフィー・オッター／コンチェルトコペンハーゲン「バッハ」マタイ受難曲より「憐れんでください。」

3. 評価結果

Windows Media Player で 44.1KHz,16bit の WAV ファイルを再生した結果、ケーブルが変わったことで Windows Media Player の印象が変わり、ケーブル交換以前に感じられていた音の粗さみたいな感じが払拭されました。

VUPlayer では 44.1KHz,16bit, 96KHz,24bit および 192KHz,24bit の WAV ファイルを再生した結果、44.1KHz,16bit では、音の溶け合いみたいなものは良いのですが、個々の音の粒立ちに不満を持つ人がいるかも知れません。しかし、ハイビット・ハイサンプリング化して行きますと、そのもどかしさは解消され、音の溶け合いと分離がちょうどホールで聴いているようなバランスで聴こえてきます。バイエルン放送交響楽団とコンチェルトコペンハーゲンは実際に生演奏で聴いているので、このようなバランスが良く分かります。

4. まとめ

Windows Media Player では、オーケストラを聴く場合に、その都度楽器の方向に耳を向ける、あるいは近づいて行って聴くような聴き方、VUPlayer では、ほどよい席でホールトーンに耳を任せて聴くような聴き方になると言えるでしょう。

ある指揮者が我々は一生懸命それぞれのパートの音を溶け合うように努めているのに、オーディオマニアの人は何故それをわざわざ分離して聴こうとするのですかと問うたという話がありますが、そのことを思い出させます。

同じようにコンサートホールの再現をオーディオに求めているも、K 谷さんは比較的前列の席の迫力のある音を求めておられ、当方は後列の間接音の多い音をイメージしていますので、音楽体験がオーディオシステムの選択や調整にも関わってきているように思います。

システムのグレードが低いと如実にアラが見えたりして優劣を論じやすいのですが、ある程度グレードが上がってくると最終的には音楽に聴き方でオーディオシステムの選択や調整が行われるということでしょうか。

以上

【追記】

インフラノイズの新しいケーブルの発売の際に主張された純正律でケーブルの再生能力を確認するという手法に興味を持ち、音律や楽器やホールの判別テストをケーブル以外の機器にまで広げて実施してきました。一連の報告を元に、文献を調査してそれらの結果を「音律の再生による再生装置の評価法に関する考察」としてまとめ、オーディオ論壇のページに記載してありますので併せてそちらの方もご覧ください。